

# 1

## 1.心に感謝をもちながら

心に感謝をもちながら 主の庭に入ろう  
 新しい日は主が作られた 共に喜び歌おう  
 ※  
 賛美しよう 感謝しよう 共に喜び歌おう  
 賛美しよう 感謝しよう 共に喜び歌おう

## 2.求めて

あなたの声を求めて あなたの顔求めて  
 あなたの心求めて 御前に出る  
 ※  
 すべてを委ねて すべてを捧げて  
 あなたを求めて礼拝します

## 3.思い煩いを (I cast all my cares upon you)

思い煩いをあなたの御手に委ねる  
 分からなくなった時にはただ主のもとに行く

## 4.栄光イエスにあれ

栄光 栄光イエスにあれ  
 栄光 栄光イエスにあれ  
 ※  
 御座にいます小羊よ ほむべきお方  
 あなたは統べ治める とわに正義をって

# 5 祈りのガイドライン

1. 賛美と感謝の祈り ビリビ4の4~7
2. 悔い改めと主を慕い求める祈り 詩篇51
3. 個人的な願いの祈り ヨハネ15の7
4. とりなしの祈り 1テモテ2の1~4/エペソ4

- ①大和カルバリーチャペルと大川牧師ご夫妻のため
- ②瀬戸カルバリーチャペルと倉知牧師家族のため
- ③クリスチャンが成長し、整えられ、用いられますように  
=教会員が恵まれて、礼拝・祈禱会・奉仕・献金・伝道ができますように
- ④求道者が与えられ、救われますように→受洗者
- ⑤教会近隣の方が集われますように
- ⑥若い献身者が与えられますように
- ⑦ジョイキッズとユースの働きが充実しますように
- ⑧高齢の方々のフォローが十分になされますように
- ⑨Seto Life Art Studio が用いられますように  
=ウクレレ・キッズ英語・ゴスペル・モンテッソーリ教室・音楽ミサなど
- ⑩50人→100人→200人と教会が成長しますように

## 5. 日本と世界とエルサレムの平和を願って...

- コロナ禍からの解放・医療従事者と政治判断のため
- ウクライナとロシアのために。戦争が終わるように。

## 信仰宣言

- 「私の家族は全員救われます」  
 「日本にはリバイバルが始まっています」  
 「私も用いられます」  
 「すべての問題は解決します」  
 「することなすこと、みな成功します」  
 「私のまわりには奇跡が起こります」  
 「すべてのことを感謝します」  
 「イエス様がご一緒ですから」  
 「ハレルヤ主よ感謝します」

瀬戸カルバリーチャペル Seto LIFE ART Studio

489-0909 愛知県瀬戸市みずの坂5-64 0561-48-8899  
 牧師：倉知契 kei.kurachi@gmail.com



## 祈りの小径(こみち)

Number: 142 瀬戸カルバリーチャペル

「祈りの小径(こみち)」の名称は、愛知県瀬戸市・せともの街の名所「窯垣の小径」と、詩人・八木重吉の作品にある「祈りの路」から名付けられました。各ページにある数字の順に、賛美→聖書→黙想→解説→祈りを致します。

## 2

### 今日の聖書のことば

ゆっくり読んで黙想しましょう。

ピリピ人への手紙3章1～9節

1 最後に、わたしの兄弟たちよ。主にあって喜びなさい。さきにしたのと同じことをここで繰り返すが、それは、わたしには煩わしいことではなく、あなたがたには安全なことになる。

2 あの犬どもを警戒しなさい。悪い働き人たちを警戒しなさい。肉に割礼の傷をつけている人たちを警戒しなさい。3 神の霊によって礼拝をし、キリスト・イエスを誇とし、肉を頼みとしないわたしたちこそ、割礼の者である。4 もとより、肉の頼みなら、わたしにも無くはない。もし、だれかほかの人が肉を頼みとしていると言うなら、わたしはそれをもっと頼みとしている。5 わたしは八日目に割礼を受けた者、イスラエルの民族に属する者、ベニヤミン族の出身、ヘブル人の中のヘブル人、律法の上ではパリサイ人、6 熱心の点では教会の迫害者、律法の義については落ち度のない者である。

7 しかし、わたしにとって益であったこれらのものを、キリストのゆえに損と思うようになった。8 わたしは、更に進んで、わたしの主キリスト・イエスを知る知識の絶大な価値のゆえに、いっさいのものを損と思っている。キリストのゆえに、わたしはすべてを失ったが、それらのものを、ふん土のように思っている。それは、わたしがキリストを得るためであり、9 律法による自分の義ではなく、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基く神からの義を受けて、キリストのうちに自分を見いだすようになるためである。

…つづく

## 3

### 黙想(Life Art Meditation)の時間

(感じたこと・恵まれたことをノートします)

キリストには代えられません  
世の宝もまた富も この御方がわたしに  
代わって死んだゆえです  
世の楽しみよ去れ 世の誉れよ行け  
キリストには代えられません 世の何物も

## 4

### みことばの解説

「最後に…」で始まるこの3章は、ここからがパウロ先生のこの手紙を通して伝えたい最も重要な内容です。今回は3章の前半を見ますが、大きくふたつのことを伝えています。

① 本当の割礼とは…

2節には「あの犬どもを警戒しなさい」と強い言葉で書いてありますが、ようするに、ユダヤ教的クリスチヤン(キリストを信じるためにはまずユダヤ人にならなければならぬ=割礼を受ける)という根強い思想を一掃し、真の割礼とは何なのかを語っています。つまり割礼を通してユダヤ教(ユダヤ人であることの証)となるならば、キリスト者となった証はいったい何なのか？

その答えが3節です…

- (1) 神の霊によって礼拝する
- (2) キリスト・イエスを誇り(喜び)とする
- (3) 肉を頼みとしない

そして、「肉の頼み」ならパウロ先生は「私にも無くはない」と言って、自分自身について語っています。

- a. 家系の誇り →八日目に割礼を受けた生粋のヘブル人
- b. 正統派である誇り →律法に厳格なパリサイ人
- c. 働きの誇り →教会を迫害するほど熱心な信仰者
- d. 道徳的誇り →落ち度のない原理主義者



これらがパウロ先生の「肉の頼み」=誇りでした。しかし、これらすべてを「キリストのゆえに損と思うようになった」(7節)と書いています。つまり…

② 損得計算のやり直し…が起こったのです。

それは、「律法による自分の義」でなく、「キリストを信じる信仰による義」に生きることでした。自分が何かをする、したことが誇りではなく、すべてを成し遂げてくださった主イエス・キリストを知る知識の絶大な価値！ここにのみ、誇りがある！と宣言したのです。これは、根強い人本主義、競争・比較社会、優劣主義、名声や富など肉的な誇り(①の肉の割礼)に対する徹底的対抗であり、「損得計算」のやり直しだったのです。